

群 教 セ	G10 - 01
	平27.257集
	道 徳

# 道徳的実践意欲を育てる指導の工夫

—二つの役割演技を取り入れて—

特別研修員 板橋 真紀

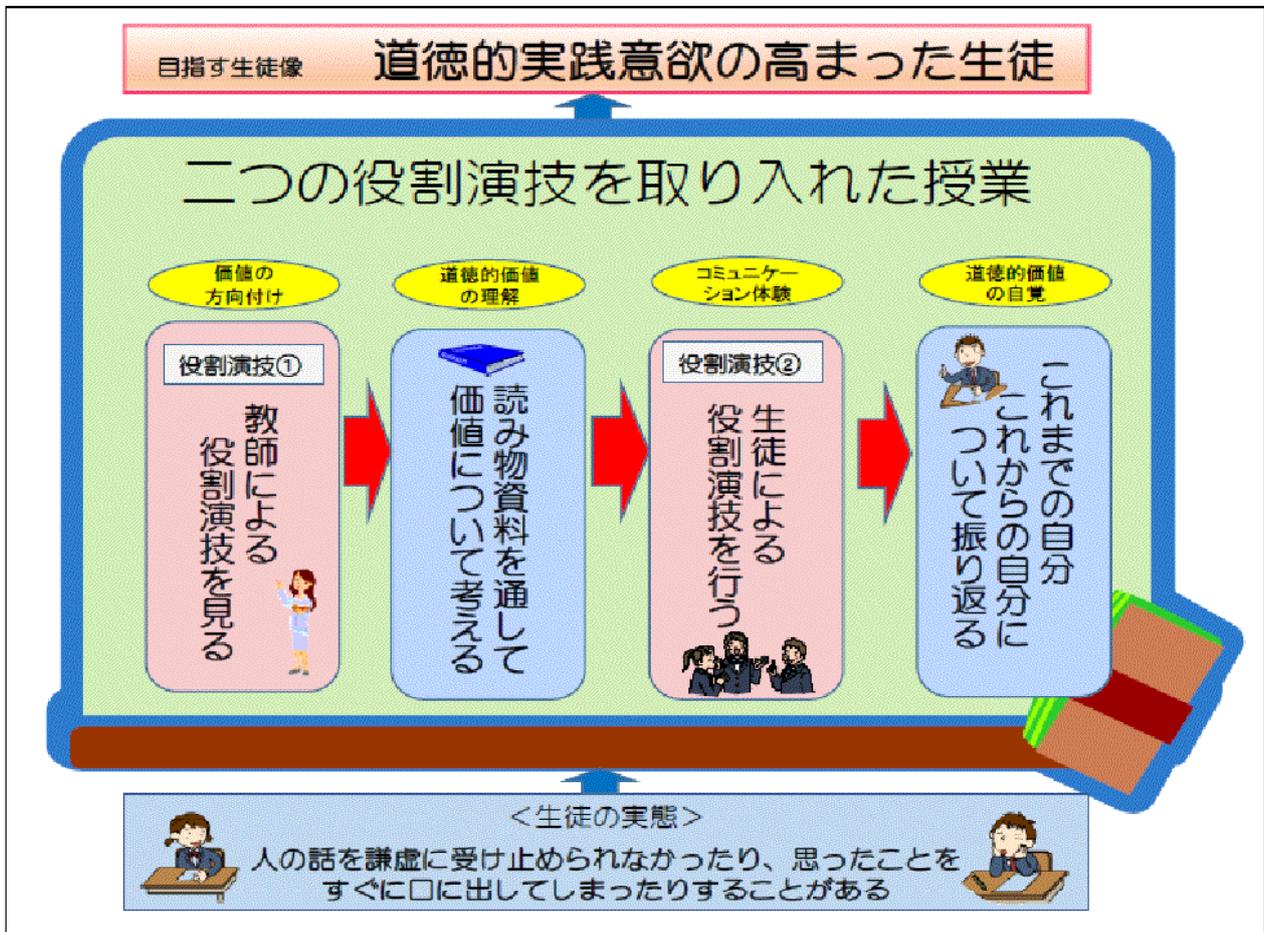
## I 研究テーマ設定の理由

道徳教育に係る教育課程の改善等についての答申では「人格形成の基盤は道徳性であり、道徳教育は自立した一人の人間として人生を他者と共により良く生きる人格形成を目指すもの」とある。道徳の教科化に向けて国が動き始めている中、既存の道徳教育、とりわけ道徳の時間の充実が求められている。

本学年の生徒は下級生の入学をきっかけに、より良い先輩であろうと心がけ、生活を始めた。しかし、他の人の話を謙虚に受け止めようとする、友達に対して思いやりのある言葉をかけることなどを苦手としている生徒もいる。人間関係に配慮したコミュニケーションとはどういうものかという知識や経験が不足していたり、物事をあまり深く考えなかったりする中で、場面に応じた適切な態度や発言ができないことが原因であると考えられる。

このような生徒たちに、道徳の授業でその価値を自覚させ、これまでの自分を振り返り、将来への展望を持たせることが必要であると考えられる。導入で教師による役割演技を見せ、資料を用いて価値について考えさせた後、生徒同士による役割演技を取り入れて演じさせることは、人間関係に配慮したコミュニケーションの在り方を体感した上で自己の振り返りができ、道徳的実践意欲の高まりにつながると考え、本主題を設定した。

## II 研究内容



## 1 研究構想図

## 2 授業改善に向けた手立て

### (1) 実践1における研究上の手立て

「遠足で学んだこと」 2－(5) 人と人との交わり

- ①導入で、東京校外学習を想起した場面設定での教師による役割演技を見て、価値を理解する。  
(人間理解)
- ②展開後段で、導入の教師による役割演技の場面に戻り、読み物資料で考えた内容をふまえ、より良い行動方法を演じる。(コミュニケーション体験)

導入では、生徒の価値への方向付けをするために、教師による役割演技を取り入れた。校外学習で、班活動をしている最中に意見が対立した二人の様子を見せ、それぞれの思いを感じ取らせた。

展開前段では、読み物資料を用い、人はそれぞれ違い、思いやよさがあることについて考えさせた。展開後段では、導入の役割演技に戻り、実際の生活で起こりうる場面設定で、意見の対立した二人の間にいる自分が、どんな言葉を言ったら班活動がうまくいくか、より良い発言について考えさせ、演じさせた(生徒による役割演技)。終末で、これまでの自分自身を振り返り、今後の自分について考え、記述させた。

### (2) 実践2における研究上の手立て

「合唱コンクールに向けて」 4－(7) クラスの一員としての自覚

- ①導入で、合唱コンクール練習を想起した場面設定で教師による役割演技を見て、価値を理解する。(人間理解)
- ②展開後段で、導入の教師による役割演技の場面に戻り、読み物資料で考えた内容をふまえ、問題を解決する具体的な言葉を考え、続きを演じる。(コミュニケーション体験)

導入では、生徒の価値への方向付けをするため、教師による役割演技を取り入れた。合唱コンクールの練習を行っている最中に言い合いになった二人の様子を見せ、それぞれの思いを感じ取らせた。できることは精一杯やること、自分勝手にしないこと、責任感を持ってクラスに貢献することの大切さについて考えさせた。

展開後段では、導入の教師による役割演技に戻り、言い合いをしている二人の間にいる自分が、より良い合唱にするために、どんな言葉をかけたら学級活動がうまくいくか、より良い発言について考えさせ、演じさせた(生徒による役割演技)。資料についての発問で考えたことを生かして、生徒一人一人に人間関係に配慮した演技を考えさせ、三人組で発表し合うことで他者理解にもつながった。

終末では、「学級の一員としての自覚を持つとは・・・」に続く各自の考えを書かせた。自分自身が掲げた価値に関し、これまでの自分はどうだったか、また、これからはどうしていきたいのかをワークシートに記述させた。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 導入で教師による役割演技を行うことで、生徒が本時の学習に対し、関心や自分なりのイメージを持って臨むことができ、価値への方向付けが明確になった。
- 実生活で起こりうる場面設定で生徒たちが役割演技を行ったことで、普段クラスや友達等の問題にあまり関心を持たない生徒も、自分自身のこととして道徳的価値について考え、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションを体験することができた。その体験から、道徳的価値について自分の言葉でまとめたり、今の自分とのギャップについて考え、自身を振り返ったりする記述から、道徳的実践意欲の高まりが見られた。

### 2 課題

- 役割演技と読み物資料を使用するので、一時間で扱える資料や発問数の精選をする必要がある。
- 役割演技を取り入れるものとしてふさわしい内容項目について、整理する必要がある。

## ＜授業実践＞

### 実践 1

- 1 主題名 人と人との交わり 2- (5) (第2学年・1学期)  
資料名 「遠足で学んだこと」 東京書籍 明日をひらく2年

#### 2 本主題及び本時について

実践1では「人と人との交わり」を主題とし、「自分とは異なる個性の持ち主に対しても積極的に心を開き、相手の生き方に謙虚に学ぼうとする意欲を育てる」ことをねらいとしている。資料は、遠足の班行動を題材としている。藤野君は時間やきまりを大切にしようと思いがち。吉川君は得意な面を發揮して、植物について説明することに気を遣う。お互いに友達のことを思って気を遣うことは同じでも、それぞれの性質やよさがある。お互いを認め合うことの大切さに気付かせたい。

学年行事である東京校外学習後に本実践を行うことで、道徳的価値の意味を深めさせたいと考えた。本時では導入と展開後段に、役割演技を取り入れた。日常生活の中で自分と異なる考え方、感じ方に接してぶつかり合う場面を設定し、教師が役割演技を行うことで、ねらいに関心を持たせた。また展開後段では、導入での役割演技を振り返り、自分にはない、相手のよさに出会った時、それを素直に認められるか、反発してしまうかコミュニケーション体験をさせた。

#### 3 授業の実際

##### 【導入】教師による役割演技

同じ班員Cの立場で演技を見させ、この後ABそれぞれの気持ちを確認してから、読み物資料に入った。

6月10日。東京校外学習。私たちの班は、午前中チェックポイントへ行き、その後仲見世を歩く。雑誌にも載っていて、有名なもんじゃ焼きのお店でランチをすることになっている。時刻は12時少し前。店の前まで来るとものすごい行列。

A: 「わあ、このお店、大人気だね。きっとおいしいんだよ。

楽しみ」

B: 「これ、何分待ちなのかな？」

A: 「1時間くらいかかるって。でも、せっかくだし、並ぼう」

B: 「1時間はちょっといやだな・・・」

「えーだってみんなで決めたんじゃない。先生もマックとかじゃなくて東京らしいもの、食べるって言ってたし」

B: 「そんなに待ったら、午後の予定が狂っちゃうから行こうよ」

C: 「・・・」

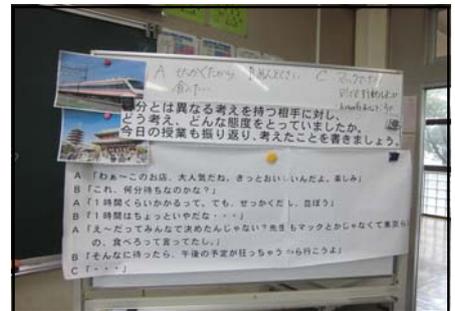


図1 導入の役割演技・振り返り

##### 【展開前段】資料「遠足で学んだこと」を使って道徳的価値の理解

生徒の意見から、教師がキーワード化して板書した。

T: 「みんな違って、みんないい」という言葉を思い出したのは、どうしてだろうか。

S1: ぼくにはぼくの、吉川君には吉川君のよさがあることを感じたから。

S2: 人それぞれ興味のあることは違うから。

キーワード  
相手を認める気持ち

T: 三人の登場人物の中で、一番友達のことを思っているのは誰か。理由も考えよう。

S3: (ぼく) 吉川君のことも牧君のことも気にかけていたから。

S4: (吉川君) 植物のことを詳しく話してあげていたから。

S5: (牧君) 班長として、言い合いをしている二人の間に入り、いい言葉を言っていたから。

キーワード  
それぞれの人のよさ

### 【展開後段】生徒による役割演技～教師による役割演技の続きを考える～

読み物資料で理解した道徳的価値について意識した上で、導入の役割演技の場面に戻った。

三人組になり、AB(台本のセリフ) C(それぞれが考えたセリフ)の役割をローテーションで演じた。

T:〈場面設定〉意見がくい違う、同じ班の友達がいる。どちらとも同じくらい仲がいい。この先、班行動をうまく進めなければならない。午後にも見学場所が決まっている。

このような状況の時、班行動がうまく進むために、あなたは二人にどんな言葉をかけますか。

S6:私もここで食べて、いい思い出にしたいけど、時間のこともあるから、ちがうところにしよう。

S7:午後の計画が崩れないように、この近くの名物的なものを食べて、効率よくこなそうよ。

S8:混んでるから、先に見学場所を見てから、また来てみるのはどうかな。



図2 よりよい言葉を考える場面

### 【終末】自己の振り返り

役割演技を終え、自分自身の振り返りをさせた。「これまで、あなたは自分と違う意見の人と接する時、どんな態度でしたか。これからはどうしていきたいですか」と投げかけ、考えを記述させた。

以下は、生徒の振り返りの一部である。

- それぞれの考えがあって、それを否定するのはよくないと思った。自分はこれまで相手の考えをあまり聞いていなかったので気を付けたい。
- 自分の考えだけの意見じゃなくて、相手の意見も尊重しようと思った。
- これまでは異なる意見にかなり反発していた。これからは人の意見をよく聞いて、話し合っていきたいと思う。
- 一人一人我慢する気持ちが大切であり、認め合い、理解する気持ちも大切であると思う。
- 人は自分とまったく同じというわけではないから、自分のことだけで物事を通すのではなく、自分とは違う意見を持った人のことも考えていきたい。
- これまでは相手の話をほとんど聞いていなかったもので、次からは相手の考えも受け入れて、話を進める。

## 4 考察

- 導入で、教師による役割演技を見せてから資料に入ったことで、生徒に授業に対し、関心や見通しを持たせることができた。
- 終末、実際の生活で起こりうる場面設定で、自分が第三者にあたる人物であると仮定して、その場合、どんな言葉を言ったら班活動がうまくいくか、人間関係に配慮した発言について考え、演じることができた。それにより、よい人間関係を築くコミュニケーションを体験することができた。最後にこれまでの自分自身を振り返らせたが、「相手の意見も尊重する」「話し合う」「認め合い、理解する気持ちを持つ」等の言葉が97%の生徒の記述に見られ、道徳的実践意欲の高まりが見られた。
- 中心発問で、生徒は価値理解できていたが、読み物資料の内容確認に時間をかけすぎてしまった。じっくり意見交流させることができなかつたので、役割演技を取り入れる場合には発問を精選する必要がある。
- 導入の教師による役割演技の提示、終末の生徒たちによる役割演技について、一時間の授業における時間配分について検討する必要がある。

## 実践2

### 1 主題名 学級の一員としての自覚 4-(7) (第2学年・2学期)

資料名 「合唱コンクールに向けて」 自作資料

### 2 本主題及び本時について

実践2では「学級の一員としての自覚」を主題とし、「クラスの一員として、協力することの大切さに気付き、自分のできることを一生懸命実行しようとする意欲を育てる」ことをねらいとしている。本資料は、合唱コンクール前のあるクラスの様子を書いたものである。合唱の大好きな女子とやる気の足りない男子に、担任や生徒の一部は微妙なズレを感じながらも、当たり障りのない練習の日々が過ぎていった。しかし、ついにある日、女子Aが男子への不満を言い始めた。生徒たちは本音で語り合い、全力で取り組もうと気持ちを新たに、合唱練習をすることができた。ある学級における、合唱コンクールに向けた心の変容を追求することにより、学級の一員としての自覚を深めさせ、クラスのために自分のできることを精一杯やろうとする意欲を持たせたい。

学校行事である合唱コンクール前に本実践を行い、道徳的価値の意味を考えさせた。本時では導入と展開後段に、役割演技を取り入れた。合唱練習で、男女の意見がぶつかり合う場面を設定し、教師が役割演技を行うことで、ねらいに関心を持たせる。また展開後段では、導入での役割演技を振り返り、学級の一員として、学級向上のためにどんな言葉を発するべきか考え、演じさせた。

### 3 授業の実際

#### 【導入】教師による役割演技

同じクラスメイトCの立場で演技を見させ、その後ABそれぞれの気持ちを確認した。

あるクラスの合唱練習中。一回歌い終わると、すぐに動いたり、しゃべり始めたりする。

女子A 「ねえ。男子はみんな、やる気あるの？しゃべってばかりでさ、練習に遅れてくる人も多いし。学年リハーサルでも、うちら遅れをとっていたのに……。このままでいいの？」

男子B 「歌っているよ！女子の声だって、出てないじゃないか。文句ばかり言って、うるさいな。」

C 「……」



図3 TTによる役割演技を見て、価値理解を深めている様子

#### 【展開前段】資料「合唱コンクールに向けて」を使って道徳的価値の理解

生徒の意見から、教師がキーワード化して板書した。

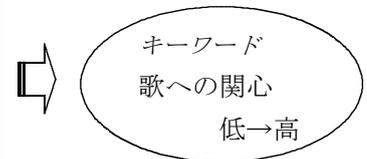
T: これまで普通に練習が続いていたのに、どうして、男女間で言い争いになったのだろう。

S1: 男子がやる気がないから。

S2: 女子が不満を言ったから。

S3: このままではいけないと思った人が言ったと思う。

S4: 不満を言われた男子が言い返したから。



T: クラスみんなで、どんなことを本音で語り合ったのだろう。

S5: どのような歌を歌いたいのか、どうしたら良い歌になるか。

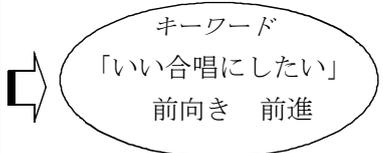
S6: 男女それぞれのできていないところ。

S7: 直してほしいところ。音程や強弱など細かいこと。

S8: 意識や態度。

S9: 歌に対するやる気。

S10: このままでは自分たちも気持ちよく歌えない。



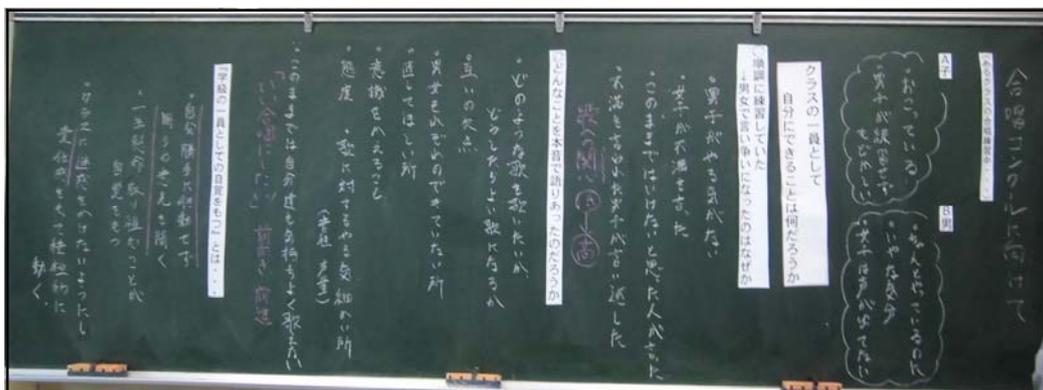


図4 生徒の意見から、教師がキーワード化して板書

【展開後段】生徒による役割演技～教師による役割演技の続きを考える～

読み物資料を使って理解した道徳的価値について意識した上で、導入の役割演技の場面に戻った。

三人組になり、AB（台本のセリフ）C（それぞれが考えたセリフ）の役割をローテーションで演じた。

<p>T: クラスがまとまり、より良い合唱にするために、あなたはどんな言葉を友達に伝えますか。</p> <p>S12: 言い争いをしている暇があるなら、もっとしっかり練習しよう。でもお互い提案とか改善点があるならそれを受け止めて、もっと良くしよう。私たちの目標は最優秀賞だよ。</p> <p>S13: 二人とも落ち着いて。皆の気持ちがバラバラじゃ、いい合唱なんてできないよ。だから話し合っ、皆でいい合唱を作ろう。</p> <p>S14: じゃあさ、お互いの欠点を克服できるように努力したら言い合いもなくなるんじゃないのかな。</p>	
--	--

図5 グループでの役割演技の様子

【終末】自己の振り返り

グループでの役割演技の後、代表グループに役割演技を発表してもらった。その後、「集団の一員としての自覚を持つとは・・・」に続く言葉を各自ワークシートに書かせてから、これまでの自分はそれについてどうであったか。また、これからはどうしていきたいか、という項立てで、記述させた。

以下は、生徒の振り返りの一部である。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく他人に迷惑をかけない、当たり障りのない生活をしてきた。これからは<u>学級のために積極的に行動したい。</u></li> <li>・クラスに<u>問題が起こっても、話に入らず、自分の意見を他人に言うことができなかった</u>ので、これからは<u>気付いたことがあったら、きちんと自分の考えを言って、みんなで協力していきたい。</u></li> <li>・<u>クラスで何かをする時、あまり真剣に取り組んでいなかった。意識が低かった</u>ので、<u>これからは意識を高くし、クラスのために一生懸命行動したい。</u></li> <li>・「<u>どンドンやろう</u>」という感じではなく、いつもトラブルに巻き込まれないようにしてきたが、<u>自分から積極的に参加し、必要だと思えば、みんなに意見していきたい。</u></li> </ul>
--

4 考察

- 生徒自身に役割演技をさせることで、普段はクラスに対して強い関心を持たない生徒も、自分自身の問題と捉え、意見を持ったり、グループの中で友達に伝えたりすることができた。役割演技の中で友達の考えを聞くことで、道徳的価値の理解が深まり、これから自分はどうあるべきか、90%の生徒が「学級のために行動する」「クラスの問題にも関わる」「協力する」「積極的に行動する」等の考えをワークシートに記述することができた。
- 合唱コンクール前の実践であることから、合唱に重きを置きすぎ、導入の役割演技と資料の内容が同じものとなってしまったので、価値の一般化ができるような役割演技を考える必要がある。